



おわりに

メタデータ	言語: ja 出版者: 大阪公立大都市科学・防災研究センター 公開日: 2024-03-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 越智, 郁乃 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/0002000481

おわりに

2020 年度に大阪市立大学先端的都市研究拠点共同利用事業・共同研究助成「創造的都市再生の試みにおける学生の包摂手法の研究：京都における芸術文化の創造性を活かした市民主導のまちづくりプロジェクトを題材に」という題目で研究助成を受け、今回入れて 2 回のシンポジウムを開催することで、日仏両国の研究者と実践者がディスカッションを重ねてきた経緯については「はじめに」において述べたとおりである。「おわりに」では、本研究を推進するにあたって頂戴した数々の支援に謝辞を捧げたい。

この研究の端緒は、私が研究代表をつとめた大阪市立大学先端的都市研究拠点共同利用・共同研究若手奨励研究「都市の社会的包摂にむけたアーツマネジメントと社会資源：大阪市西成区と横浜市黄金町の比較を通じて」（2015 年度）及び日本学術振興会科学研究費助成事業基盤（C）「都市の記憶をめぐる創造と実践：芸術祭を通じた市民社会の形成に関する人類学的研究」（2018-2021 年、課題番号 18K01198）にある。本研究を推進し、3 冊に渡る成果報告の場を与えていただいた大阪市立大学都市研究プラザの教員、職員の皆様にお礼を申し上げたい。

また過去 2 回のシンポジウム開催に際して、アンスティチュ・フランセ関西-京都、文化部長モニカ・レブラオセンドラ氏、文化部長アシスタント朝田志穂氏には、開催に向けて多大な支援と助言を賜った。この場を借りてお礼申し上げる。

エマニュエル・ガングロフ先生は、上記科研でのナント市調査中に知己を得て以来、本研究の推進に欠かせない大きな役割を担っている。前回シンポジウムは COVID-19 の渡航制限によりオンラインでの登壇となったが、今回は京都にて対面参加が実現され、直接対話による研究推進が可能になった。また、昨年度より私の本務校である東北大学大学院文学研究科に客員准教授として着任され、先生のご研究テーマで授業や調査を実施している。フランスでの調査研究に加えて日本のフィールドでも、ガングロフ先生と共に研究を進めていきたい。

『フランス都市文化政策の展開－市民と地域の文化による発展』（美学出

版、2018年)の著者である長嶋由紀子先生のご研究は、2020年のシンポジウム以降の研究推進にあたって私たちに大きな刺激を与えてくださった。2021年に、私が代表を務める科研の研究会に講師としてお招きしたご縁から、今回のシンポジウムでコメンテーターをおつとめいただいた。講演における論点を整理しつつ、文化政策研究の側面から多くの指摘と新たな刺激をくださったことに改めて感謝申し上げます。

2022年のシンポジウム開催にあたって、友谷知己先生(関西大学文学部)に翻訳・通訳をお願いした。先生の素晴らしい訳は、フランスの文化プロジェクトに対する私たちの理解を一段と深めてくださった。本シンポジウムが、異文化理解に果たす言語の役割の大きさを改めて認識する機会になったことを、この場を借りてお伝えしたい。

本書の議論に関しては、大林財団研究助成事業「文化政策と都市計画の連携を図る職能の展望：フランスにおける都市のセノグラフ概念を題材に」(代表者：川崎修良、徳島大学)、における研究成果を含む。シンポジウムの運営・ガングロフ先生の招聘にあたっては、大林財団に加え公益財団法人国際文化交流事業財団人物交流派遣・招聘事業の支援をいただいたことを記して感謝申し上げます。

最後に、本書の基となった研究の推進に欠くことのできない役割を担っている高田祐輔氏に感謝を伝えたい。この度も、コーディネート及び翻訳の監修をおつとめいただいた。引き続き、私たちの研究にお付き合いいただければ幸いである。加えて、過去2回のシンポジウムにご参加いただいたオーディエンスの皆様の質問・コメントによって本研究は推進してきた。本書に対するご意見等お寄せいただければ幸甚である。

越智 郁乃